

鶴だより

釧路市動物園 ふれあい主幹
松本 文雄



道東にも短い夏が訪れました。今年は天候不順で、5月は暑くなったのですが、その後は気温が上がらず、7月は雨や曇りも多く、日照時間は少なくなっています。ただ、春先に大雨などがなかったせいか、タンチョウの繁殖には問題がなさそうです。

釧路市阿寒町地区でも、十数つがいのタンチョウがヒナを育てています。タンチョウの生息地は湿原。北海道東部には釧路湿原や別寒辺牛湿原、霧多布湿原、風蓮湖周辺の湿地帯など、大きな湿原がいくつもあり、タンチョウの主要な生息地となってきました。道東でタンチョウが生き延びられたのは広い湿地があったことも大きな要因だったと思います。

しかし、生息数の増加とともに、繁殖に適した湿地が足りなくなってきました。徐々にタンチョウは営巣地を湿原内から、湿原にそそぐ河川の上流部へと広げていきました。阿寒町地区は釧路湿原から少し離れており、大きな湿原はありません。太平洋に流れ込む阿寒川と、釧路川の最下流部に合流する仁々志別川という2本の河川が区内を流れています。20年ほど前には仁々志別川流域に3-4つがい、阿寒川とその支流の舌辛川流域に3-4つがい程度が営巣しているにすぎませんでした。しかし、現在では仁々志別川流域に6-7つがい、阿寒川流域では10つがい以上が営巣していると考えられています。仁々志別川流域の一部にはまとまった面積の湿地もありますが、多くのタンチョウたちは川沿いや支川に残った狭い場所で営巣しているようです。近くに農家や人家などもあり、人里に近い場所で生活しているのです。



子育てをしているタンチョウ

このような場所は、環境も変わりやすく、また、外敵も近づきやすいため安全な場所とは言えません。特にヒナが孵った後は湿地を離れて、牧草地などを利用するため、キツネなどに襲われやすく、ヒナが取られてしまうことも多くあります。以前はなかなかヒナが大きく育つことは少なかったのですが、近年は、無事に育て上げることも増えてきました。タンチョウの親たちも、注意深く、賢く子育てをしているのかもしれません。

しかし、危険なのはキツネだけではなくありません。このように人里近くに出てきているため、交通事故も増えてきています。6月には3羽のヒナの死体が動物園に収容されました。明らかな交通事故は1件だけですが、他のヒナも事故にあった可能性もあります。私たちも注意して、タンチョウが育つのを見守っていきましょう。

タンチョウの頭はなぜ赤いのか

釧路市動物園 ツル担当主査
吉野 智生

タンチョウの特徴として、頭が赤いことが挙げられます。漢字では「丹頂」と書き、「丹」は「赤」、「頂」は「頭」を指します。さて、ではタンチョウの頭はなぜ赤いのでしょうか。誤解している方が時々いらっしゃいますが、頭の赤い部分は羽ではなく皮膚で、多数の細かいイボ状の突起で覆われ、皮下血管内の血液が透けて見えるので赤いのです。タンチョウの頭の羽は生後約1年で抜け始め、満2歳になる頃にはほぼ完全に裸出し、要するにハゲます。これが本当のツルッぱげというわけですが、タンチョウにとっては大人の証です。また病気やケガなどで貧血になった場合、色が薄く、橙色や白に近くなるので、健康状態を知る指標の一つになります。

別な方向から考えると、何のために禿げたのでしょうか。例えばニワトリのトサカや肉垂は皮下の毛細血管が発達しているの赤いですが、空気に直接触れる皮膚が増えるので体温調節に役立っています。また立派なトサカはオスがメスにアピールしたり、他の個体を威嚇したりするのにも役立ちます。或いはハゲワシなどの死肉食者は、禿げることで羽毛に余計な汚れや細菌が付かないようにし、感染症にかかるリスクを下げています。

ではタンチョウの場合はどうでしょう。体温調節は、暖かい地域のツルでは関係があるのかもしれませんが、タンチョウは寒冷地に生息するのであまり関係なさそうです。特に死肉食でもないのに、感染症防御というもおそらく関係ないでしょう。では繁殖に役立つのでしょうか。この赤い部分は、興奮すると血管が拡張して血流量が増えるので大きくなり、落ち着いている状態では小さいままです。またダンスや求愛の際には赤い部分が大きくなるので、タンチョウ同士のコミュニケーションや繁殖に役立っていると考えられます。ただ、このハゲの大きさや色鮮やかさに個体差があるかどうかは正直なところ分かりませんので、個体ごとの繁殖成績にはおそらく関係ないと思います。



本の紹介「茶の湯の羽箒 知られざる鳥の文化誌」(下坂玉起 著:2018年9月25日発行 淡交社)

羽箒(はぼうき)という道具をご存知でしょうか。茶の湯で用いられる道具の一つで、炭火の周囲を掃き清めるためのものです。読んで字のごとく鳥の羽、特に大型鳥類の羽から作られ、タンチョウをはじめとするツル類の羽が最も多く使われているそうです。ただ、その元となった鳥の種類がわからないものも非常に多いそうで、著者はそこから羽箒に興味を持ち、研究を始めました。本書は茶の湯の歴史や作法、羽箒の作り方からはじまり、羽箒に使われている鳥の種類やその同定、そして羽箒を通して見える人と鳥との関わりに至るまでが書かれています。中には専門的な用語も含まれますが、イラストやわかりやすい用語解説もあるので、楽しく読み進めることができます。タンチョウと人との関係について、新たな一面を知ることができるのではないのでしょうか。

